

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新潟薬科大学
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	学部等 共通科目	専門科目		
薬学部	薬学科	夜・通信	1 or 2	16	6	66	73	19
応用生命科学部	応用生命科学科	夜・通信				45	69	13
	生命産業創造学科	夜・通信				10	28	13
(備考) ・全学共通科目は1科目開講し、薬学部1単位、応用生命科学部2単位である。 ・応用生命科学科専門科目には教職課程自由科目17単位を含む。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>学生及び教職員が利用するポータルシステム「Cyber-NUPALS」にシラバスが掲載されており、シラバス検索機能に「実務家教員担当科目」のチェックボックスを設定している。この検索機能を利用し、一覧を確認することができる。なお、2019年8月下旬に、外部からもアクセス可能なシラバスの専用サイトを立ち上げ学外に対しても確認できるよう対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ https:// www.nupals.ac.jp/about/syllabus/ ・シラバス専用サイト https://syllabus.nupals.ac.jp/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟薬科大学
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

インターネット
http://www.niigata-inst-st.ac.jp/publicinfo/pdf/h31-04_yakuinhyougiinn.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人社団健進会 理事長	2019/4/1 ~ 2021/3/31	法人経営全般(特に新潟薬科大学)
非常勤	新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター センター長	2019/4/1 ~ 2021/3/31	法人経営全般(特に新潟薬科大学)
非常勤	新潟工科大学 学長	2019/4/1 ~ 2021/3/31	法人経営全般(特に新潟工業短期大学)
非常勤	鶴巻克恕法律事務所 弁護士	2019/4/1 ~ 2021/3/31	法人経営全般(特に新潟医療技術専門学校)
非常勤	株式会社新潟日報社 相談役	2019/6/1 ~ 2021/5/31	法人経営全般(特に新潟工業短期大学及び新潟医療技術専門学校)
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟薬科大学薬学部
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス作成に関するチェックリストを用いて、教授会にて教務委員会が作成に関するポイントを資料に基づき事前に説明した上でシラバス作成を行なっている。また、シラバス作成後は、そのチェックリストに基づき教務委員会が科目ごとの記載事項の適切性をチェックしている。記載事項、公表方法は以下のとおり。</p> <p>【記載事項】</p> <p>授業概要、到達目標、授業計画(授業回、授業項目、授業内容、カリキュラム到達目標番号、授業方式、授業外学習(予習・復習)、担当者)、教科書・参考書、公開資料、成績評価方法・基準、課題に対するフィードバック方法、担当者連絡先(オフィスアワー、居室、メールアドレス)等</p> <p>【公表方法】</p> <p>学生及び教職員が利用するポートフォリオシステム「Cyber-NUPALS」にて閲覧可能。毎年度初めのオリエンテーション以降に公表している。また、希望者には冊子での配布を行っており、大学ホームページにおいても公開している(下記URL参照)。なお、2019年8月下旬に、外部からもアクセス可能なシラバスの専用サイトを立ち上げ、容易に検索できるよう対応した。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/about/syllabus/ ・シラバス専用サイト https://syllabus.nupals.ac.jp/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスに科目ごとの成績評価方法・基準、評価割合を記載し、学生に予め示した上で、それに基づいて適正に評価している。授業への出席は授業回の3分の2以上を求め、欠席が多い等、学習意欲が認められない場合は当該科目の単位認定を行なわない。</p> <p>他大学出身者からの単位認定の申し出があった場合、修得済み科目のシラバス内容と本学の相当する科目のシラバス内容を教務委員会が精査の上、履修の認定を行なっている。また必要に応じて単位認定試験を実施し、厳格に評価を行なっている。</p> <p>卒業論文については、研究室によってバランスを欠いた成績評価にならないよう、学部共通の「卒業研究に関する指針」を定め各研究室に周知している。また、卒業研究プロセス評価票、発表審査票、論文最終審査票などのループリックを用いて、適切な成績評価を実施している。これらは各研究室に周知するとともに学生に対してもオリエンテーション時に周知している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価基準については、「新潟薬科大学薬学部授業科目履修規程」にて、90点以上を「秀」、90点未満80点以上を「優」、80点未満70点以上を「良」、70点未満60点以上を「可」、60点未満を「不可」と定めている。また、GPAについては、「新潟薬科大学薬学部GPA制度に関する取扱い要項」で以下の通り定めている。学生に対して、毎年度オリエンテーション時に同要項を含む各種規程を掲載した冊子(学生便覧)を配布して、教務委員会による説明を実施し、周知しており、大学ホームページでも公表している(下記URL参照)。

・成績評価基準とGPの関係

評語	評価点	GP	評価内容
秀	90点以上	4.0	特に優れた成績
優	80点以上、90点未満	3.0	優れた成績
良	70点以上、80点未満	2.0	妥当と認められる成績
可	60点以上、70点未満	1.0	合格と認められる最低限の成績
不可	60点未満	0.0	合格と認められる最低限の成績に達していない

・GPAの算出方法

(秀の修得単位数 x 秀のGP (4.0) + 優の修得単位数 x 優のGP (3.0) + 良の修得単位数 x 良のGP (2.0) + 可の修得単位数 x 可のGP (1.0)) / 総履修登録単位数

成績分布状況の把握については、年度末の進級判定、卒業判定の際に各学年の必修科目の合計点を用いて順位付けを実施し(添付書類(3)-1)、全学生の成績状況を教授会で共有している。また、学修指導が必要な学生に対してはアドバイザーによる指導を実施している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページ
<http://www.nupals.ac.jp/about/info-learn/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

「新潟薬科大学薬学部学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を策定し、大学ホームページで公表している(下記URL参照)。また、学生に対して、毎年度オリエンテーション時にディプロマ・ポリシーを含めた各種ポリシーを掲載した冊子(「学生便覧」、「履修ガイド」)を配布し、教務委員会による説明を実施している。

学位授与に必要な学生が身に付けるべき能力ごとに、薬学部全体の教育課程において、どの科目の修得が必要であることを示した「カリキュラムマップ」を策定し公表している。当該科目の成績評価及び卒業研究の成績評価を踏まえ、教授会にて卒業要件(※)を満たしていることを確認の上、卒業判定を厳格に実施している。最終的な学位授与判定は新潟薬科大学学則に基づき学長が行なっている。

【※卒業要件】

薬学部薬学科 必修科目 165 単位、選択必修科目 15 単位以上
選択科目 6 単位以上
合計 186 単位以上

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページ
<http://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/>

学校名	新潟薬科大学応用生命科学部
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 開講する全ての科目について、「応用生命科学部シラバスの書き方」に基づき、授業計画(シラバス)を作成している。また、シラバスチェックリストに基づき教務委員会が科目ごとの記載事項の適切性をチェックしている。シラバスの記載事項、公表方法は以下のとおり。</p> <p>【記載事項】 授業概要、キーワード、一般目標、到達目標、授業計画(授業回、授業項目、授業内容、授業方式、授業外学習(予習・復習)、担当者)、教科書・参考書、公開資料、成績評価方法・基準、課題に対するフィードバック方法、担当者連絡先(オフィスアワー、居室、メールアドレス)等</p> <p>【公表方法】 学生及び教職員が利用するポートフォリオシステム「Cyber-NUPALS」にて閲覧可能。毎年度初めのオリエンテーション以降に公表している。また、希望者には冊子での配布を行っており、大学ホームページにおいても公開している(下記URL参照)。なお、2019年8月下旬に、外部からもアクセス可能なシラバスの専用サイトを立ち上げ、容易に検索できるよう対応した。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/about/syllabus/ ・シラバス専用サイト https://syllabus.nupals.ac.jp/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスに科目ごとの成績評価方法・基準、評価割合を記載し、学生に予め示した上で、それに基づいて適正に評価している。具体的には、各科目の到達目標別に評価方法(定期試験、レポート、成果発表等)を明示し、評価方法ごとの評価割合を示している。レポートの評価については、評価に偏りが生じないように、応用生命科学部レポートルーブリックを作成し、レポートの評価基準について共有化している。また、授業への出席は授業回の3分の2以上を求め、欠席が多い等、学習意欲が認められない場合は当該科目の単位認定を行わない。</p> <p>卒業論文については、研究室によってバランスを欠いた成績評価にならないよう、学部共通の「卒業研究の成績評価について」を定め、卒業研究口頭発表ルーブリック、副査論文審査ルーブリックを作成し、各研究室および学生に対して周知している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価基準については、「応用生命科学部応用生命科学科授業科目履修規程」及び「応用生命科学部生命産業創造学科授業科目履修規程」で90点以上を「秀」、90点未満80点以上を「優」、80点未満70点以上を「良」、70点未満60点以上を「可」、60点未満を「不可」と定めている。またGPAについては、「新潟薬科大学応用生命科学部GPA制度及びCAP制に関する取扱い要項」で以下の通り定めている。学生に対して、毎年度オリエンテーション時に同要項を含む各種規程を掲載した冊子(学生便覧)を配布して、教務委員会による説明を実施し、周知しており、大学ホームページでも公表している(下記URL参照)。

・成績評価基準とGPの関係

評価	評価基準	GP	評価内容
秀	90～100点	4.0	特に優れた成績
優	80～89点	3.0	優れた成績
良	70～79点	2.0	妥当と認められる成績
可	60～69点	1.0	合格と認められる最低限の成績
不可	59点以下	0.0	合格と認められる最低限の成績に達していない

・GPAの算出方法

(秀の修得単位数 x 秀のGP (4.0) + 優の修得単位数 x 優のGP (3.0) + 良の修得単位数 x 良のGP (2.0) + 可の修得単位数 x 可のGP (1.0)) / 総履修登録単位数

成績分布状況の把握については、年度末の進級判定、卒業判定の際に各学年の必修科目の合計点や当該年度GPAを用いて順位付けを実施し(添付書類(3)-1)、全学生の成績状況を教授会で共有している。また、学修指導が必要な学生に対してはアドバイザーによる指導を実施している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページ
<http://www.nupals.ac.jp/about/info-learn/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

「新潟薬科大学応用生命科学部学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を策定し、大学ホームページで公表している(下記URL参照)。また、学生に対して、毎年度オリエンテーション時にディプロマ・ポリシーを含めた各種ポリシーを掲載した冊子(「学生便覧」、「履修ガイド」)を配布し、教務委員会による説明を実施している。

学位授与に必要な学生が身に付けるべき能力ごとに、応用生命科学部全体の教育課程において、どの科目の修得が必要であることを示した「カリキュラムマップ」を策定し公表している。当該科目の成績評価及び卒業研究の成績評価を踏まえ、教授会にて各学科の卒業要件(※)を満たしていることを確認の上、卒業判定を厳格に実施している。最終的な学位授与判定は新潟薬科大学学則に基づき学長が行なっている。

【※卒業要件】

応用生命科学科 必修科目 89 単位、選択科目 35 単位以上
合計 124 単位以上
生命産業創造学科 必修科目 66 単位、選択科目 58 単位以上
合計 124 単位以上

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページ
<http://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新潟薬科大学
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	インターネット < http://www.niigata-inst-st.ac.jp/info/zaimu.html >
収支計算書又は 損益計算書	インターネット < http://www.niigata-inst-st.ac.jp/info/zaimu.html >
財産目録	インターネット < http://www.niigata-inst-st.ac.jp/info/zaimu.html >
事業報告書	インターネット < http://www.niigata-inst-st.ac.jp/info/zaimu.html >
監事による監査 報告(書)	インターネット < http://www.niigata-inst-st.ac.jp/publicinfo/14.html >

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページ(点検・評価) http://www.nupals.ac.jp/about/self-check/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページ(大学認証評価) http://www.nupals.ac.jp/about/certified/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 新潟薬科大学薬学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページ http://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/)
(概要) 薬学部は、国民に信頼され、医療に貢献できる高度な薬学を修め、医療人たる崇高な倫理観と豊かな人間性をもち、地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上に貢献するとともに医療の進展に資する研究心を有する薬剤師を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ http://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/)
(概要) 次のような能力を身に付け、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定し、学位を授与する。 1. 医療人たる崇高な倫理観と豊かな人間性をもち、医療に携わる使命感を有していること 2. 医薬品を理解し、適正使用の礎となる科学力を有していること 3. 医療福祉連携を推し進め、地域における人々の健康自立を支援する全人的能力 (科学力・臨床力・対人力) を有していること 4. 医療や福祉を取り巻く様々な課題に気付き、解決に導く論理的・科学的能力を有していること 5. 最新の医療情報の収集等、自己研鑽に努め、生涯にわたって学修する態度・習慣を身に付けていること
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ http://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/)
(概要) 学位授与に要求される能力修得のために、次のような方針でカリキュラムを編成する。 1. 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基盤とし、基礎薬学から衛生薬学、医療薬学、臨床薬学に至るまで、学年進行とともに深化するような学習到達目標を設定する。 2. 医療人たる倫理観と豊かな人間性の涵養を促す科目を配置する。 3. 医薬品を理解し、適正使用の礎となるような科学を学修する薬学専門科目を配置する。 4. 人々の健康自立を支援する上で必要な応用科学力や臨床力を修得する総合型授業科目を配置する。 5. 問題発見・問題解決能力を修得する科目を配置する。 6. 医療福祉連携を推し進め、地域における人々の健康自立を支援するための対人力を涵養する実践的科目を配置する。 7. 対人力涵養の要となる幅広い視野を育成するための教養系科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/)
(概要) 1. 求める学生像 薬学部が求める学生像は、次のような資質と意欲を有する者である。 (1) 将来、人々の健康自立を支援する医療人・薬学人として社会に貢献したいという強い志と情熱をもつ人 (2) 医療人として望まれるコミュニケーション能力の素質と豊かな人間性をもつ人 (3) 自然科学系分野の基礎学力を有し、より高度な専門知識を身に付けようとする強い学習意欲と科学的探求心をもつ人 2. 入学前に修得が望まれる知識・能力 高等学校各教科・科目全般について履修すること。特に、次のような基礎学力を身に付け

ておくことを望みます。

- (1) 理科の基礎的な知識及びそれらに応用する能力
- (2) 数学の基礎的な知識及びそれらに応用する能力
- (3) 国語及び英語の基礎的な文章読解力、作文能力及びコミュニケーション能力

学部等名 新潟薬科大学応用生命科学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ

<https://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/app-policy/>）

（概要）

応用生命科学部は、食品、環境、健康などの分野において、生命科学を基盤とした教育研究活動を推進し、当該分野の基本的知識及び専門的知識を備え、国際的、地域的な課題解決に向けた応用力を発揮する有為な人材を育成することを目的とする。

1. 応用生命科学科は、バイオ工学、環境科学及び食品科学に関わる生命現象の本質を分子レベルで解明し、その応用及び効果的な理科教育を図るための教育研究を通して、対象分野において必要となる知識及び能力を修得した研究者、技術者、次世代を育成する指導者等の専門人材を育成する。
2. 生命産業創造学科は、食品、農環境等の生命産業に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野における経済学及び経営学を駆使することで、企画、開発、経営に優れた専門人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/app-policy/>）

（概要）

【応用生命科学科】

応用生命科学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身に付けた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。

1. 生命を尊重する心、他人を思いやる心などの豊かな人間性と倫理観を備え、人と人との共感の累積をめざすコミュニケーション能力を有する。
2. バイオ工学・環境科学・食品科学を包括する生命科学分野、理科教育分野の抱える課題を探究し解決するために、高度な知識・技能を備え、それらに応用できる能力を有する。
3. 数量的スキル及び情報リテラシーを身に付け、各種情報を収集、分析して適正に判断し、活用できる能力を有する。
4. 修得した科学的知識や洞察力に基づき、客観的かつ論理的に思考し、理解を得るための優れたプレゼンテーションができる能力を有する。
5. 地域的視点と国際的視野を持ち、学修経験を総合的に活用することで、地域及び国際社会の諸問題の本質を見極めながら課題を探究する能力と課題を解決する能力を有する。

【生命産業創造学科】

生命産業創造学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身に付けた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。

1. 生命を尊重する心、他人を思いやる心を持つ豊かな人間性と倫理観を備え、人と人との共感の累積をめざすコミュニケーション能力を有する。
2. 生命・食料・農業・環境に関わる産業領域の課題に取り組む、基盤となる幅広い知識と教養を備え、柔軟な思考力を有する。
3. 農林水産業及び食品・環境・生命産業の事業の経営課題に取り組むための広い視野と積極的な意欲を持てる能力を有する。
4. ICT*を用いて情報を収集・分析し、適正に判断して活用できる能力を有する。
5. 修得した科学的知識や洞察力に基づき、客観的かつ論理的に思考し、プレゼンテーションできる能力を有する。
6. 地域社会と国際社会の変化に注視し、広い視野を持って積極的に活躍しようとする意欲を持続できる能力を有する。

*ICT：Information and Communication Technology の略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ
<https://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/app-policy/>）

（概要）

【応用生命科学科】

応用生命科学科は、バイオ工学、環境科学、食品科学及び理科教育に関わる現象の本質を探究し、その成果を広く社会の課題に適用して解決を図ることができる専門人材を育成することを目的に教育を行う。

1. 地域的視点と国際的視野を持ち、豊かな人間性と倫理観を育み、社会で活躍できる基礎的な能力を身に付けるため、教養科目として、語学系、自然科学系、社会・人文科学系、キャリア系の科目を配置する。
2. 情報活用力を育成する情報リテラシーに関する科目、及び数量的指標を用いて科学的に理解する能力を養うための科目を配置する。
3. 生命科学及び理科教育分野の高度な基礎理論から専門的知識・技能、さらには応用技術まで幅広く理解するための専門科目（バイオ工学、環境科学、食品科学、理科教育系）を配置する。
4. 座学のみならず ICT*を活用した反転授業や実験講義、SGD**、討論等の授業形態をとり、主体的・対話的に学ぶ学習を進める。
5. 事象や物質の本質を洞察し論理的に考察して表現する能力を身に付けるために、実験・実習、演習科目等を配置する。
6. 1年次から、教育実習や地域社会におけるボランティア活動等を授業として取り上げ、実践的な学習を通して社会性を身に付け、学生自ら対人力及び課題解決能力を涵養することができる教育を進める。
7. 修得した知識を総合的に活用し、課題を自ら模索し探究する過程を経て、継続的に課題を解決できる能力を培うための科目「卒業研究」を配置する。

教育成果の実証的な把握・評価に努め、アドミッション・ポリシーに基づき受け入れた入学者がディプロマ・ポリシーを達成するために、より効果的な教育を行えるようカリキュラムの改善を行う。

*ICT：Information and Communication Technology の略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術

**SGD：Small Group Discussion の略。小グループ討議

【生命産業創造学科】

生命産業創造学科は、食品・農環境等の生命現象に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野に経済学及び経営学を駆使することで、企画・開発・経営・販売に関する知識や能力に優れた専門人材を育成することを目的に教育を行う。

1. 豊かな人間性と倫理観を育み、社会で活躍できる基礎的な能力を身に付けるため、自然科学分野と社会・人文科学分野の文理融合型の科目を配置する。
2. 1年次では、主に幅広い教養と語学力を養うための科目を配置し、2年次では専門領域への基礎的な科目を配置する。3年次では専門領域の科目を重点的に配置するとともに、研究室（ゼミ）に配属して教員とのコミュニケーションを密接にし、修得した知識を総合的に活用して自ら課題を解決できる能力を培うための科目「卒業研究」を配置する。
3. 情報活用力を育成する情報リテラシーに関する科目、及び数量的指標を用いて科学的に理解する能力を養うための科目を配置する。
4. 座学のみならず ICT*を活用した反転授業や SGD**、討論等の授業形態をとり、主体的・対話的に学ぶ学習を進める。
5. 事象や物質の本質を洞察し論理的に考察して表現する能力を身に付けるために、実習、

<p>演習科目等を配置する。</p> <p>6. 地域社会におけるボランティア活動や現場調査等を授業として取り上げ、実践的な学習を通して社会観を身に付け、学生自ら対人力及び課題解決能力を涵養することができる教育を進める。</p> <p>教育成果の実証的な把握・評価に努め、アドミッション・ポリシーに基づき受け入れた入学者がディプロマ・ポリシーを達成するために、より効果的な教育を行えるようカリキュラムの改善を行う。</p> <p>* ICT : Information and Communication Technology の略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術</p> <p>** SGD : Small Group Discussion の略。小グループ討議</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/app-policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>【応用生命科学科】</p> <p>1. 求める学生像 バイオ工学、環境科学、食品科学などの分野で生命科学の知識、技術を身に付け、社会で活躍したいと願っている人 また、「理科の楽しさを伝えることのできる有為な教育者」として、高等学校や中学校などの教育現場で活躍したいと願っている人</p> <p>2. 入学前に修得が望まれる知識・能力</p> <p>(1) 理科と数学の基礎的な知識及びそれらに応用する能力 (2) 英語の基礎的な文章読解力及び表現力 (3) コミュニケーション能力</p> <p>【生命産業創造学科】</p> <p>1. 求める学生像 食品、農環境などに関わる産業分野で企画・開発・経営・販売を担える専門人材として社会で活躍したいと願っている人</p> <p>2. 入学前に修得が望まれる知識・能力</p> <p>(1) 国語、英語の基礎的な文章読解力及び表現力 (2) 自然科学及び社会科学の基礎知識 (3) コミュニケーション能力</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：大学ホームページ（教育上の基礎的な情報） https://www.nupals.ac.jp/about/info-basis/</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
薬学部	—	18人	15人	0人	5人	8人	46人
応用生命科学部	—	14人	7人	1人	5人	4人	31人
附置研究所	—	1人	2人	0人	1人	0人	4人
その他	—	1人	0人	0人	1人	1人	3人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		74人					75人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページ http://gyouseki.nupals.ac.jp/nuphp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	180人	131人	72.7%	1080人	901人	83.4%	0人	1人
応用生命科学部	180人	122人	67.7%	720人	569人	79.0%	0人	0人
合計	360人	253人	70.2%	1800人	1470人	81.6%	0人	1人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
薬学部	168人 (100%)	1人 (0.6%)	109人 (64.9%)	58人 (34.5%)
応用生命科学部	131人 (100%)	9人 (6.9%)	121人 (92.4%)	1人 (0.76%)
合計	299人 (100%)	10人 (3.3%)	230人 (76.9%)	59人 (19.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p><薬学部></p> <p>開講する全ての授業科目について、以下の内容を含んだシラバスを作成し、公表している。</p> <p>【記載事項】</p> <p>授業概要、到達目標、授業計画（授業回、授業項目、授業内容、カリキュラム到達目標番号、授業方式、授業外学習（予習・復習）、担当者）、教科書・参考書、公開資料、成績評価方法・基準、課題に対するフィードバック方法、担当者連絡先（オフィスアワー、居室、メールアドレス）等</p> <p>【公表方法】</p> <p>学生及び教職員が利用するポートフォリオシステム「Cyber-NUPALS」にて閲覧可能。年度初めのオリエンテーション以降に公表している。また、希望者には冊子での配布を行っており、大学ホームページにおいても公開している。なお、2019年8月を目安に、外部からもアクセス可能なシラバスの専用サイトを立ち上げ、容易に検索できるよう対応する。</p> <p><応用生命科学部></p> <p>開講する全ての授業科目について、以下の内容を含んだシラバスを作成し、公表している。</p> <p>【記載事項】</p> <p>授業概要、キーワード、一般目標、到達目標、授業計画（授業回、授業項目、授業内容、授業方式、授業外学習（予習・復習）、担当者）、教科書・参考書、公開資料、成績評価方法・基準、課題に対するフィードバック方法、担当者連絡先（オフィスアワー、居室、メールアドレス）等</p> <p>【公表方法】</p> <p>学生及び教職員が利用するポートフォリオシステム「Cyber-NUPALS」にて閲覧可能。年度初めのオリエンテーション以降に公表している。また、希望者には冊子での配布を行っており、大学ホームページにおいても公開している。なお、2019年8月を目安に、外部からもアクセス可能なシラバスの専用サイトを立ち上げ、容易に検索できるよう対応する。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p><薬学部></p> <p>学位授与に必要な学生が身に付けるべき能力ごとに、薬学部全体の教育課程において、どの科目の修得が必要であるかを示した「カリキュラムマップ」を策定し公表している。当該科目の成績評価及び卒業研究の成績評価を踏まえ、教授会にて卒業要件を満たしていることを確認の上、卒業判定を厳格に実施している。最終的な学位授与判定は新潟薬科大学学則に基づき学長が行なっている。</p>
--

<p><応用生命科学部></p> <p>学位授与に必要な学生が身に付けるべき能力ごとに、応用生命科学部全体の教育課程において、どの科目の修得が必要であることを示した「カリキュラムマップ」を策定し公表している。当該科目の成績評価及び卒業研究の成績評価を踏まえ、教授会にて各学科の卒業要件を満たしていることを確認の上、卒業判定を厳格に実施している。最終的な学位授与判定は新潟薬科大学学則に基づき学長が行なっている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬学部	薬学科	186 単位	有・無	単位
応用生命科学部	応用生命科学科	124 単位	有・無	単位
	生命産業創造学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：大学ホームページ（教育上の基礎的な情報）</p> <p>http://www.nupals.ac.jp/about/info-basis/</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬学部	薬学科	1,200,000 円	300,000 円	900,000 円	施設設備資金
応用生命科学部	応用生命科学科	900,000 円	300,000 円	(初年度) 400,000 円 (次年度以降) 600,000 円	施設設備資金
	生命産業創造学科	800,000 円	300,000 円	(初年度) 200,000 円 (次年度以降) 400,000 円	施設設備資金

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生支援総合センターに学修支援部門を設置し、学生一人ひとりの学習における問題点を明確にすることを目的に学習相談に応じている。また、学生が学生に教えるチューター制度を設けており、苦手科目を教わりながら克服したい学生に日常かつ恒常的なサポートを行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 各学部のキャリア支援委員会が主体となり、低学年次から定期的にキャリアガイダンスを実施している。また、求人情報をWEBで閲覧できる就職支援システム（両学部）やポートフォリオシステム（応用生命科学部）を導入している。キャリア支援課では、履歴書・面接指導や進路相談など個別に対応している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生支援総合センターに学生相談部門を設置し、心身ともに健康で快適な学生生活を送ることができるように専門の医療スタッフを配置している。心の悩みは、臨床心理士（カウンセラー）が対応し、日々の健康に関しては、学校医、保健師、養護教諭（看護師）が連携してサポートを行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページ（教育情報の公表）
<http://www.nupals.ac.jp/about/>